

会 議 録

会議の名称	平成２３年度 和泉市環境審議会
開催日時	平成２４年２月２１日 １４時００分～１５時２０分
開催場所	和泉市コミュニティセンター４階中集会室
出席者	中原会長 柏副会長 竹歳副会長 中村委員 増田委員 巖委員 辻本委員 金児委員 岸脇委員 村井委員 門林委員 飯塚委員 塩谷委員（以上１３名 順不同）
事務局	環境保全課
会議形態	公開
会議の議題	（１）和泉市環境審議会規則の一部改正等について （２）和泉市環境基本計画について ・進捗状況 ・第２次和泉市環境基本計画 （３）自然環境調査結果について
会議の要旨	中原会長による議事進行のもと、事務局から自治基本条例制定に伴う、和泉市環境審議会規則一部改正の報告、公募市民を加える手続きの進行状況の説明が行われた。その他、事務局による旧環境基本計画の進捗状況、第２次和泉市環境基本計画の概要、自然環境調査関連業務の進捗状況の説明が行われた。 会議では、主に和泉市環境基本計画や自然環境関連についての審議が行われた。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
主な意見等	<p>（１）和泉市環境審議会規則の一部改正等について</p> <p>【会長】 和泉市全体の審議会等に公募委員を入れなければならないということで、当審議会においても公募の手続きを踏み、次期任期から公募委員に加わっていただくことになった。 幸いなことに５名の方々の応募があり、選考後、新年度から男女１名ずつに加わっていただく予定である。</p> <p>【副会長】 応募のあった５名の男女比率を教えてもらいたい。</p> <p>【事務局】 男性が２名、女性が３名となっている。 選考委員会を後日実施し、決定する予定である。</p> <p>（２）和泉市環境基本計画について</p> <p>【会長】 環境基本計画の平成２２年度の進捗状況で、オキシダントの項目が環境基準未達成なのはよく分かるが、ＳＰＭも環境基準未達成となっている。ＳＰＭは浮遊粒子状物質のことで、喘息の原因となる粒子であるが、環境基準未達成の理由を聞きたい。</p>

【事務局】

平成21年度は環境基準を満たしていた。また、補足的に説明させていただくと、10ミクロン以下の粒子をSPMと呼んでおり、和泉市では緑ヶ丘小学校で測定している。

評価については、1時間値の1日平均値が 0.1 mg/m^3 以下という環境基準があり、これを一日でも超えた日があると基準を超えたことになる。

平成21年度の場合は、超えた日が1日もなかったが、平成22年度については超えた日があったので、基準を満たしていないということになっている。

(3) 自然環境調査結果について

【委員（動植物専門）】

過去に出した意見書の中に留意すべき個別事項があり、それを根拠に専門的な調査を北部公共施設整備事業用地で行った。

この場所については、貧栄養湧水湿地特有の環境を持っているため、整備に際しては慎重なご検討を是非ともお願いしたい。

また、信太山丘陵については、元々自衛隊が演習していた当時は、2次草原のススキ群落が主であったが、その場所で演習しなくなったため、草本系から木本系に遷移してきている。

草本系より木本系の方が水の消費量が多いため、木本系に遷移していくと、丘陵端部での湧水量が減ることになる。

そういう面で、この場所は非常に微妙な環境を持ったところであり、湿地というのは非常にデリケートなバランスで成立しているものであることを是非とも充分考慮・検討されたい。

適切な時期に、この審議会にご報告いただければと思う。

また、生きもの観察会に関しては、順調に進めていただいている。

平成23年度の調査がほぼ終わっているのに、なぜ報告できないかという話だが、やはり種の同定は非常に時間がかかるものであり、市民ボランティアの方々が、種を同定し、とりまとめることに非常に多くのご努力をいただいていることに対し、敬服をしていただければと思っている。

一点だけ確認したいのは、来年度で各地点の4季調査が終了することになるのだろうか。

【事務局】

調査地点が5地点あり、2ヶ月おきくらいに観察会を実施している。

それぞれの地点について、調査する季節をずらしながら順繰りに実施しているので、5年でちょうど一周まわることになり、各地点での四季調査が完了する形になっている。

【委員（動植物専門）】

動植物調査というのは、季節の関係があるので、これを聞いて安心した。

あと、平成25年度に向けてまとめられるということだが、是非ともうまく市民の方々にどう公表していくか、せっかく調査を実施しているので、例えば、広報で取り上げるなど、少し考えていただければと思う。

【委員】

こうやって表になって出てくると、何やら沢山生物がいるのだなというだけのイメージになってしまうかもしれないが、これだけの生物の名前が分かること自体すごいことである。

そういう方がボランティアで参加して下さるということは非常に貴重である。大学で生物を教えている人間でも、生物の名前がそれほど分かるものではない。

このボランティアの方を大切にする意味で、広報の時にでも触れていただければと思う。

あと、資料を見ていて気がついたが、このようにある程度一通り揃うと欲が出てくるもので、生きもの調査の一覧表の中で魚類が入っていない。偶然、私のゼミ生で釣りが好きなものが出て、榎尾川で魚を採ってきて大学祭の時に水槽展示する機会があったが、びっくりするほど沢山の種類の魚がいた。

和泉市でも魚を調査している市民団体があるように聞いたことがあるので、組織的な調査がなかなか難しいとしても 魚類のデータを少しずつでも足していければと思った。

今後の作戦として、可能性があったら含めていただきたいと思う。

【事務局】

生きもの観察会を4年も実施しているので、「NPO法人いずみの国の自然館クラブ」の方ともかなり接触をしている。そのNPO法人には、魚類専門の方が在籍していないので、その方面は弱いと聞いたことがある。

実は、和泉市には「めだかネットワーク」という団体があり、会員さんの中に、メダカだけではなく魚類に大変お詳しい方が居られるらしいので、どうコラボレートしていけるか、また、今後、ネットワークを繋げていくような役割ができればいいと思っているが、今後の課題として考えていきたい。

【委員】

動物（哺乳類）はどうなっているか。

京都ではヌートリア、アライグマ等がだいぶ蔓延していると聞くのだが。

【委員（動植物専門）】

アライグマの生息によって、大阪府下でも農業被害は発生しており、農業政策の中で少し駆除をされている。

南大阪はシカによる食害がないので、まだ被害が少ない。

鳥獣による被害は、イノシシというより雑種のイノブタとアライグマによって、農業上かなりの被害を受けている。

北大阪では、これにシカ被害が加わり、さらに悲惨な状態になっている。現在、このような状況だと思われる。

【会長】

ただ今、この平成22年度の生きもの観察の結果を若干当初の経緯も含めて説明させていただいた。

なお、第2次和泉市環境基本計画を答申案として、私の方から市長にお渡しした時、文書には記載していないが、口頭で、北部地域公共施設整備事業用地に関する環境保全には格別なご配慮いただき旨、また、この審議会としてもご配慮いただきたいと会長から意思を伝えている。

この事業が実働し始めると、我々も無関心では居られないので、何らか皆さんのご意見を伺ったり、あるいは報告したりということになろうかと思われるので、よろしくお願いしたい。

また、生きもの観察会の結果については、細かなデータを取っていただいているので、市民の皆さんに現状についてご理解いただくために冊子を作ることになっている。

一方で、貴重種の存在については、あまりあからさまにしまうと、そこを狙ってよからぬ方が集まるということもあるので、その辺の工夫も必要である。

いずれにしても、大変なご努力をいただき、調査をしていただいているものである。

【委員】

私は、先ほどから出ている「NPO法人いずみの国の自然館クラブ」に発足当初から加わっている。

先ほどから当クラブに対して敬意を…という話があり、とてもうれしく思っている。本当にお忙しい方々が、実は年間5回の生きもの観察会以外に、毎月、自然観察会を行っており、7年間で70回くらい実施している。

チョウチョに詳しい方、植物に詳しい方、鳥に詳しい方などいろいろな方が在籍し、そこに市民の方が加わって、いつも40～50名の参加を得て観察会を実施している。

自然館を作ることを大きな目的としており、和泉市の子供たちに自然や環境の体験をさせてあげて、学習・教育の場を作りたいということで自然館クラブという名前をつけいる。

また、私は「いずみ環境くらぶ」にも入っており、活動の中で貝塚の自然遊学館、岸和田のきしわだ自然資料館に見学に行かせていただき、非常に感銘を受けて帰ってきた。

「いずみの国の自然館クラブ」に関しては、一般市民さんではあっても、お詳しい方が沢山居られて、やる気もおありなので、この審議会から自然館を作ってはどうかという風なご提案をいただければ思っている。

【会長】

5年間に渡る自然環境調査結果が、そういうものの引き金になるのではと、ご意見を拝聴しながら感じた。

以上